

## 子どもの発達に応じた創造的ディスカッション技能 を育む学習／教育環境作り

丸野, 俊一  
九州大学大学院人間環境学研究院

<https://hdl.handle.net/2324/13254>

---

出版情報 : 2008-03  
バージョン :  
権利関係 :

## 研究発表

### (1) 出版物

- 1) Maruno, S. & Kato, K. (in press) Metalearning/metacognition ( with key word definition of retrospective monitoring, prospective monitoring, reality monitoring, source monitoring, self-appraisal, self-management) In U. Windhorst, M.D. Binder, & N. Hirokawa (eds.) *The Encyclopedia of Neuroscience*, Heidelberg: Springer-Verlag.
- 2) 丸野俊一・松尾剛 (印刷中) 対話を通じた教師の対話と学習 秋田喜代美&キャサリン・ルイス(編)「授業の研究・教師の学習—レッスンスタディへの誘い」 明石書店.
- 3) 丸野俊一 (印刷中) 討論による学習 多鹿秀継編「学習心理学の最前線」 あいり出版.
- 4) 丸野俊一 (2008) 「学びの世界へ」への誘い 坂口光一編「感性・こころ」 垂紀書房, 51-85.
- 5) Tomida, E. & Maruno, S. (2007) Is the Effectiveness of Verbal Interaction Determined by Task structure in an Informal Discussion? In Sakamoto, T (Ed.) *Communicating Skills of Intention* (pp.143-147). Tokyo: Hituzi Shobo Publishing.
- 6) 丸野俊一 (2005) 授業の効果を上げる 高垣マユミ編「授業デザインの最前線—理論と実践をつなぐ知のコラボレーション」 北大路書房, 123-157.
- 7) 丸野俊一 (2005) 創造的学びのスタイルを育むには 友枝敏雄編「心と社会をはかる・みる」九州大学出版会, 89-109.

### (2) 学会誌論文

- 1) 松尾剛・丸野俊一 (印刷中) 主体的に考え、学び合う授業実践の体験を通して、子どもはグラウンド・ルールの意味についてどのような認識の変化を示すか 教育心理学研究.
- 2) 丸野俊一 (2008) 対話の視点から捉えた書くときの推敲過程 人工知能学会誌, 23, 33-42.
- 3) 丸野俊一 (2007) 「心の働きを司る『核』としてのメタ認知」研究 —過去、現在、未来— 心理学評論, 50(3), 191-203.
- 4) 丸野俊一 (2007) 適応的なメタ認知をどう育むか 心理学評論, 50(3), 341-355.
- 5) 松尾剛・丸野俊一 (2007) 子どもが主体的に考え、学び合う授業を熟練教師はいかに実現しているか：話し合いを支えるグラウンド・ルールの共有過程の分析を通じて 教育心理学研究, 55(1), 93-105.
- 6) Tajika, H., Nakatsu, N., Nozaki, H., Neumann, E., & Maruno, S. (2007) Effects of self-explanation as a metacognitive strategy for solving mathematical word problems. Japanese Psychological Research, 49(3), 222-233.
- 7) 富田英司 (2005) 曖昧な構造の協同問題解決における思考進展過程の探索的研究 認知科学, 12(2), 89-105.
- 8) 五十嵐亮・丸野俊一 (投稿中) 教室談話における「発言相互の繋がり」を可視化する分析方法の開発と適用 日本教育工学会論文誌.

### (3) 紀要(学術論文)等

- 1) 假屋園昭彦・丸野俊一 (印刷中) 話し合いにもとづく算数の協同問題解決場面で児童が獲得すべき力量とは何か 鹿児島大学教育学部研究紀要 (教育科学編), 59.

- 2) 假屋園昭彦・丸野俊一 (印刷中) 複式学級と単式学級に属する児童の話し合い過程の比較研究 (Ⅱ) 鹿児島大学教育学部研究紀要 (人文科学編), 59.
- 3) 假屋園昭彦・丸野俊一 (2007) 複式学級と単式学級に属する児童の話し合い過程の比較研究 (Ⅰ) 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 17, 109-169.
- 4) 假屋園昭彦・佐々祐之・丸野俊一 (2007) 複式学級に属する児童の話し合いに基づく算数の協同問題解決過程の相互作用分析 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 17, 171-193.
- 5) 堀田竜次・假屋園昭彦・丸野俊一 (2007) 道徳の授業における対話活動が道徳性の変容に及ぼす効果 鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要, 17, 195-211.
- 6) 富田英司 (2007) 議論のダイナミクスを生け捕る発話間引用ネットワーク分析 九州大学心理学研究, 8, 73-83.
- 7) 小林敬一・小澤敬 (2007) 相互氏名を用いた対話型授業の参加構造—教師のステップ・インと指名指導権の関係— 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 13, 287-296.
- 8) 小澤敬・小林敬一 (2007) 小学校の授業において話し合いを深めるための教師の役割 静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会科学篇), 57, 283-294.
- 9) 生田淳一・丸野俊一 (2005) 教室での学習者の質問生成に関する研究の展望 九州大学心理学研究, 6, 37-48.
- 10) 丸野俊一 (2005) 「心理的関わりの距離」が子どもの学びを変える 教育と医学, 53(9), 84-93.

#### (4)シンポジウム・公開セミナー

##### <2007 年度>

- 1) 丸野俊一 [企画者] (2007) 授業づくり公開セミナー「子ども主体の話し合う・学び合う授業づくりを求めて」(2007年8月25日, 於:天神クリスタルビル)
- 2) 丸野俊一 [企画者] (2008) 子ども主体の話し合い・学び合いを中心とした授業づくり (2008年1月26日, 於:筑紫野市立阿志岐小学校)
- 3) 丸野俊一・松尾剛 [企画者] (2007) 教室で子ども主体の学び合いを研究している私を問う (日本教育心理学会第49回総会自主シンポジウム) 日本教育心理学会第49回総会発表論文集, S106-107.
- 4) 丸野俊一 [話題提供者] (2007) 自らの価値観にもとづいて考える力を育てる議論教育の方法 (日本教育心理学会第49回総会自主シンポジウム:[企画者] 富田英司) 日本教育心理学会第49回総会発表論文集, S40-41.

##### <2006 年度>

- 1) 丸野俊一 [企画者] (2006) 授業づくり公開セミナー「子ども主体の学び合いを中心とした授業づくりを求めて」(2006年7月29日, 於:九州大学箱崎文系キャンパス)
- 2) 丸野俊一 [企画者] (2007) 子ども主体の話し合い・学び合いを中心とした授業づくり (2007年1月27日, 於:筑紫野市立阿志岐小学校, 筑紫野市生涯学習センター)
- 3) 富田英司・丸野俊一 [企画者] (2006) 自然言語処理技術を活かした教育研究の可能性とその課題 (日本教育心理学会第48回総会自主シンポジウム) 日本教育心理学会第48回総会発表論文集, S28-29.

### <2005 年度>

- 1) 丸野俊一 [企画者] (2005) 素朴発達モデルに依拠した「話し合い活動」の活性化 (日本教育心理学会第 47 回総会自主シンポジウム) 日本教育心理学会第 47 回総会発表論文集, S52-53.
- 2) 丸野俊一 [司会者] (2005) 議論力・思考力を育む教育実践とその理論的, 実証的研究 (日本教育心理学会第 49 回総会自主シンポジウム: [企画者] 富田英司) 日本教育心理学会第 47 回総会発表論文集, S40-41.
- 3) 丸野俊一 [企画者] (2005) 実践家と研究者のコラボレーションによる「対話型授業作り」 (2005 年 7 月 3 日, 於: 福岡ガーデンパレス)
- 4) 丸野俊一 [企画者] (2006) 子ども主体の「話し合い・学び合い」を中心とした授業を求めて (2006 年 1 月 28 日, 於: 筑紫野市立阿志岐小学校)

### (5) 口頭発表・ポスター発表

#### <2007 年度>

- 1) Nakano, M., & Maruno, S. (2007) The effect of debate training on argumentative skills: The developmental process of Japanese college students. 12th Biennial Conference for Research on Learning and Instruction Eötvös Loránd University, Hungary, Aug 26-Sep 1.
- 2) 松尾剛・丸野俊一 (2007) 子どもが主体的に学び合う授業を可能にする日常文脈の活用 日本教育心理学会第 49 回総会発表論文集, 574.
- 3) 五十嵐亮・丸野俊一 (2007) 単語間推移性分析による知的交流過程の可視化 日本教育心理学会第 49 回総会発表論文集, 176.

#### <2006 年度>

- 1) Matsuo, G., Tomida, E., & Maruno, S. (2006) Classroom discourse analysis for the era of accountability: a method for discovering the most contributory utterance to extended reading of literature and its evolving process. Poster presented at the Annual Meeting of the American Educational Research Association, San Francisco, April 10.
- 2) Tajika, H., Nakatsu, N., Nozaki, H., Neumann, E., & Maruno, S. (2006) The Effects of Self-Explanation as a Metacognitive Strategy on Solving Mathematical Word Problems. Poster presented at Second Meeting of EARLI SIG 16: Metacognition Conference, University of Cambridge Faculty of Education Cambridge UK. July 19 to 21.
- 3) 向井隆久・丸野俊一・松尾剛 (2006) 子どもたちの話し合い・学び合いを中心とした授業実践力を育むには(1)ー実践家と研究者による学び合いの場作りの歩みー 日本教育心理学会第 48 回総会発表論文集, 241.
- 4) 松尾剛・丸野俊一 (2006) 子どもたちの話し合い・学び合いを中心とした授業実践力を育むには(2)ー授業中の即興的な働きかけを支える熟練教師の実践知ー 日本教育心理学会第 48 回総会発表論文集, 242.
- 5) 麻生良太・丸野俊一・向井隆久・松尾剛・奈田哲也 (2006) 話し合いを中心とした授業作りを支える研修の場づくりの過程(1) 九州心理学会第 67 回大会発表論文集, 43.

- 6) 奈田哲也・丸野俊一・松尾剛・麻生良太・向井隆久 (2006) 話し合いを中心とした授業作りを支える研修の場づくりの過程(2) 九州心理学会第 67 回大会発表論文集, 44.
- 7) 向井隆久・丸野俊一・松尾剛・奈田哲也・麻生良太 (2006) 話し合いを中心とした授業作りを支える研修の場づくりの過程(3) 九州心理学会第 67 回大会発表論文集, 45.
- 8) 松尾剛・丸野俊一・向井隆久・麻生良太・奈田哲也 (2006) 話し合いを中心とした授業作りを支える研修の場づくりの過程(4) 九州心理学会第 67 回大会発表論文集, 46.
- 9) 五十嵐亮・丸野俊一 (2006) 「他者の考えを繋げる・深める」学習過程の定量的分析—単語間推移性分析の試み— 九州心理学会第 67 回大会発表論文集, 48.

<2005 年度>

- 1) Tomida, E. & Maruno, S. (2005) Inferring conversational functions in Japanese discourse with Discourse Marker Complex. The International Workshop on Conversational Informatics, Kitakyushu, Japan, June 13-14.
- 2) 松尾剛・丸野俊一・當眞千賀子 (2005) 「話し合う場」としての教室づくり—会話の ground rule づくりの視点から— 日本教育心理学会第 47 回総会発表論文集, 471.

